

2020年4月17日までに当施設を利用された方へ

— 「『福祉支援施設におけるインシデント発生予測モデルの構築』に関する研究」 へのご協力のお願い —

研究機関名 岡山大学大学院自然科学研究科
研究機関長 岡山大学大学院自然科学研究科長 鶴田 健二

研究責任者 岡山大学学術研究環境生命自然科学学域 (工) 教授 太田 学
研究分担者 岡山大学学術研究環境生命自然科学学域 (工) 助教 上野 史

1. 研究の概要

1) 研究の背景および目的

福祉支援施設で利用者による突発的なインシデント（他害事象等）が発生しますと、施設職員に関連付帯作業が発生し、施設職員が本来提供すべき「利用者が満足するためのサービス」のための時間がこの関連付帯作業に費やされることとなります。この研究の目的は、インシデントが発生する前にそれをAI（人工知能）で予測してその事態を回避し、施設職員の関連付帯作業時間の発生を抑制し、本来のサービス提供時間を確保しようとするものです。

2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

この研究を行うことにより、福祉支援施設利用者の皆さんへよりよいサービスが提供できようになる可能性があります。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

この研究は、「SimpleCase 支援記録®」が導入されている福祉支援施設においてそのシステムにより登録された入所者の方の支援記録データを利用します。そのため対象者は当該施設の利用者の方となりますが、利用するのは事前に施設を通じて書面で利用に同意いただいた方の支援記録のみです。なお、未成年の利用者の方や代諾者が必要な方は保護者の方の同意が必要不可欠となります。

2) 研究期間

この研究は倫理委員会承認後から2024年3月31日の期間に実施されます。

3) 研究方法

福祉支援施設に導入されている「SimpleCase 支援記録®」というシステムに入力されている「支援記録文章」等の支援記録を使用します。

この「支援記録文章」は福祉支援施設の職員さんが利用者の皆さんと日々の生活をするうえで気づいた点や職員さん同士で知っておかなければいけない点を「SimpleCase 支援記録®」システムに入力しているものです。

この研究は、福祉支援施設利用者の皆さんや職員の方が「中止してほしい」と思った場合には、関係者の判断により中断・中止・終了することがあります。

4) 使用する試料

使用する試料はありません。

5) 使用する情報

使用する情報は、福祉支援施設に導入されている「SimpleCase 支援記録®」というシステムに入力されている「支援記録文章」等の支援記録です。この支援記録には福祉支援施設利用者の皆さんを直ちに特定できる氏名などの個人情報が含まれていますが、それらの情報は株式会社岡山システムサービスが匿名化して、岡山大学に提供します。そのため岡山大学では匿名化されたデータを用いて研究を行います。

6) 試料・情報の保存、二次利用

この研究で得られた情報は、研究終了後の論文作成やデータ確認を行う必要があるため、研究終了後5年間は情報漏洩しないよう適切に保管させていただきます。また、この研究で得られた情報を用いて新たに別の研究を行うときは倫理審査委員会にて承認を得ます。

7) 研究計画書および個人情報の開示

岡山大学では匿名化された支援記録を用いて研究を行うため、研究計画書および個人情報を施設利用者の皆さんに直接開示することはありません。しかし、匿名化された支援記録については、個人情報漏洩防止に最大限の配慮をしたうえで、学会や論文等で発表することがありますので何卒ご了解ください。

この研究にご質問等ありましたらあなたのおられる福祉支援施設の職員の方へお問い合わせ下さい。

<研究組織>

研究代表機関名 岡山大学大学院自然科学研究科

研究代表責任者 岡山大学学術研究自然科学学域（工） 教授 太田 学

共同研究機関

株式会社岡山システムサービス ソリューションビジネス部 部長 阿河 孝英